

令和3年度 学術講演会 受講者募集のお知らせ

本会では学術事業の一環として「人生100年時代の歯周病・全身への影響から最新の治療まで」をメインテーマとし、標記講演会を下記の通り開催いたします。是非ご参加ください。

記

- 1. 日時** 令和4年2月6日(日)
9:00~13:20(受付 8:00~9:00)
- 2. 場所** 歯科医師会館1階・大会議室
〒102-8241 東京都千代田区九段北4-1-20 TEL. 03-3262-1149
交通: JR 総武線・東京メトロおよび都営地下鉄「市ヶ谷駅」徒歩約5分
※駐車場のご用意がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
- 3. 対象者** 歯科医師
なお、下記の要件に該当する方は、ご来場をお断りいたします。
 - ・マスクを着用していない方(本会ではマスクの提供はしておりませんので、ご準備をお願いします)
 - ・風邪の症状のある方(発熱、咳、くしゃみ、のどの痛みなど)がある方
 - ・だるさ(倦怠感)や息苦しさがある方
 - ・その他、体調に不安のある方
- 4. 演題・講師**
メインテーマ: 『人生100年時代の歯周病・全身への影響から最新の治療まで』
9:05~10:45(100分) 講演Ⅰ『35年の研究と臨床から歯周病を紐解く
-感染症として、治療対象として、そして全身との関連が深い疾患として-』
講師 慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 教授 中川 種昭
10:55~12:35(100分) 講演Ⅱ『臨床歯周病学の本質を探って』
講師 医療法人社団嚙矢会 二階堂歯科医院 理事長 二階堂雅彦
12:50~13:20(30分) ディスカッション
- 5. 研修単位** 日歯生涯研修事業の個別テーマ毎の単位が取得できます。
- 6. 定員** 先着80名
- 7. 費用** 本会会員・準会員: 無料/非会員: 30,000円

8. 申込締切 令和4年2月1日(火)

9. 申込方法 本会ホームページ (<https://www.tokyo-da.org>) のイベント・講演会参加申込フォームまたは、以下の申込書に必要事項を記載の上、FAXでお申込みください。
※受付は申込み順に行ない、会場の都合上、定員に達し次第締め切りますので、早めにお申込みください。なお、定員超過後のみお断りの連絡をさせていただきます。

10. 問合せ先 公益社団法人東京都歯科医師会・学術担当
TEL 03-3262-1149 FAX 03-3262-4199



QRコード

令和3年度 学術講演会 受講申込書

東京都歯科医師会・学術係 行
FAX 03-3262-4199

ふりがな	
氏名	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 準会員 <input type="checkbox"/> 非会員
地区名 (会員のみ)	歯科医師会
医療機関名	
連絡先 (医療機関)	電話番号
	FAX番号

※申込締切：令和4年2月1日(火)まで

35年の研究と臨床から歯周病を紐解く —感染症として、治療対象として、 そして全身との関連が深い疾患として—

慶應義塾大学医学部 歯科・口腔外科学教室 教授 中川 種 昭



口腔は、皮膚、腸管とともに、多くの細菌と共存している組織です。その細菌叢のバランスが崩れることで、う蝕や歯周病といった疾病が発症します。私が専門としてきた歯周病領域では、プラークの量的増加、質的变化が生じ、グラム陰性菌を主体とした細菌が増えることで組織破壊が生じると考えられます。

なかでも *Porphyromonas gingivalis* (Pg) は、歯周病原細菌として注目されてきました。1985年に大学を卒業した私は、大学院に入学し培養法を学び、多くの患者さんの口腔内から Pg を検出し、この菌に対する血清抗体価がとて高くなることを報告しました。それから30数年が経過し、その捉え方は少しずつ変化してきています。

また、歯周病は局所の感染だけで成立するわけではなく、免疫応答、メタボリックシンドロームと呼ばれる糖尿病や肥満、高血圧などの全身的な因子もリスク因子として注目されています。さらに、喫煙やストレス（環境因子）、咬合力の問題（咬合因子）も重要です。2002年より、歯科大学から医学部の歯科・口腔外科に異動したことで、全身的な要因を抱えた患者さんと多く触れ合うようになりました。特に糖尿病との関連は、歯周病が糖尿病の治療ガイドラインに掲載され、合併症としてその関連性が注目されています。また、循環器疾患やリウマチ、骨粗鬆症などとの関連も指摘されていますので、患者さんの全身状態を把握した上で治療に臨む必要があ

略 歴

- なかがわ たねあき
- 1985年 東京歯科大学卒業
 - 1989年 東京歯科大学大学院修了（歯周病学）
 - 1990年 東京歯科大学 助手（歯周病学講座）
 - 1996年 東京歯科大学 講師
 - 1997年 ワシントン大学（シアトル，USA）Visiting assistant professor
 - 1999年 東京歯科大学 講師（復職）
 - 2001年 東京歯科大学 教授
 - 2002年 慶應義塾大学医学部 教授（歯科・口腔外科学教室）
 - 2019年 東京歯科大学 評議員
 - 2020年 東京歯科大学 客員教授
 - 2021年 慶應義塾大学医学部 副医学部長

り、そのためには医師との連携が不可欠になります。ここ20年くらいで歯周病を治療することが単に口腔内環境を良くすることから、それによって全身疾患の状況を改善する可能性が示されていることは、歯科医師として患者さんの健康を回復する役割を自覚できるようになったということ喜事ばしいことと思います。今回は、大学人である自分が歯科医師になって35年の間に、歯周病の概念や治療、全身との関わりの、何が違って、何が変わっていないのだろうかという観点から、基本的なことを中心に皆様と考えてみたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

キーワード：歯周病原細菌，全身疾患，歯周病治療

臨床歯周病学の本質を探って

医療法人社団嚙矢会 二階堂歯科医院 理事長 二階堂 雅彦



演者が歯周治療に興味を持ったのは、そもそも駆け出しの歯科医師だったころ、訪れる歯周病患者の多様性に目を瞠らされたことである。「なぜ若くしてこんなに歯周病が進行しているのか?」、「どうして治療をしても進行を止められないのか?」、様々な疑問が押し寄せてきた。

そんな時に訪れたボストンで、アメリカの歯学部大学院プログラムの存在を知り、「ここに来れば自分の疑問は解ける」のではないかと思ったのが、タフツ大学歯周病科を志すきっかけとなった。

1994年から97年まで在籍した大学のプログラムで多くの文献に触れ、歯周病は10%の患者は重症化する運命のもとに生まれ (Loe: Natural History of Periodontal Disease, 1986), それらの患者のメンテナンスをしても15%程度の患者は悪化を止められないことを知った (Hirschfeld & Wasserman, 1978)。タフツ大学では個々の歯周病患者への対処法 (非外科, 外科, 再生療法, インプラント) を学ぶことはできたが, 重度の患者にそれをどう組み合わせていくのか, またそれがいかに奏功するのか, それともしないのかは帰国後の臨床で実践を積み重ねるしかなかった。同時にこれら重症化する運命にある方をどう治療するのか, どう予防するのかを臨床のテーマとし, 現在に至っている。

時を経て, 2017年にはアメリカ歯周病学会 (AAP), ヨーロッパ歯周病連合 (EFP) から新しい歯周疾患の分類が発表され, またその国内版も昨年刊行されている。新分類では, 歯周病を進行度 (ステージ) と, 進行速度, リスク (グレード) の二つを併記することにより表現することになった。つまり歯周病はリスクを伴う疾患であるということがより強調され, また今まで術者の主

略歴

にかいどう まさひこ

- 1981年 東京歯科大学卒業
 - 1981~84年 同歯科麻酔学教室 助手
 - 1997年 タフツ歯学部歯周病学大学院修了
 - 2000~06年 藤本研修会ペリオコース講師
 - 2003年 アメリカ歯周病学ボード専門医 (Diplomate, American Board of Periodontology)
 - 2006年~ 東京歯科大学 臨床教授
 - 2006年 EPIC 研修会設立
 - 2008年~ 東京医科歯科大学 非常勤講師
 - 2015~17年 日本臨床歯周病学会 理事長
- 現在: 医療法人社団嚙矢会 二階堂歯科医院 理事長 (東京都中央区), EPIC 研修会ファウンダー

観で付けられていた慢性, 侵襲性といった診断名がより具体的, 客観的になったという点で価値が高いと演者は考えている。

またそれらの重度歯周炎の治療に欠かせないのが, 歯の予後を向上するために切り札としての歯周組織再生療法である。演者は長い間この治療法に向き合ってきたが, 最近のトピックとして, 我が国で長い間研究, 開発の続けられてきたリグロス® の臨床応用が2016年に始まったことがある。5年の時を経てこの製剤をどう評価するかについても触れていきたい。

本講演では, 新しい分類で重度 (ステージⅢ, Ⅳ), また高リスク (グレードC) に分類される患者群に対し, どのような治療計画で臨んだか, また治療後どのような経過をたどったかを成功例, 失敗例を含めご供覧に入れ, その中で見えてきた臨床歯周病学の本質に触れていきたいと思う。

キーワード: 歯周病治療, 新分類, 再生療法